

5日(日)の午後から決勝戦が始まりましたが、その前から観客席に続々と人が詰めかけました。海外のチーム、海外のサポーター、それから、日本チームの応援に東京はもちろん、遠方から応援に来てくれた人たちです。プレーの合間にはニッポンコールが会場に響きます。熱い声援を受け、まずは女子の決勝。絶対王者のカナダを越えられない壁ではなく、倒せる相手だと確信した予選の順位決定戦。相手の弱点や戦略を読み、1点を争う戦いになりました。第1ピリオドを日本が取ると、第2ピリオドはカナダ。第3ピリオドを日本が取り、王手。第4ピリオドでは12点で並び、あと1点で優勝に手が届くところにきました。しかしながら、ここで運命の神様はカナダに微笑みました。第5ピリオドではカナダにリズムをつかまれ、追いかける展開。カナダが11点を取った時点で日本が先に落ち、カナダがフランスを下して優勝。第4ピリオドでのあと1点が勝負を分けました。



大会のトリを飾るのは男子決勝。カナダ、日本、チェコの対戦です。カナダ優位の展開のまま第1ピリオドはカナダがとったものの、日本が徐々に巻き返し第2ピリオドを奪います。第3ピリオドは3チームが10点で並び、惜しくも日本が脱落。このピリオドもカナダがとります。第4ピリオドは優勝を確信したカナダの圧倒的なスピードとパワー、狙いどころのよさが発揮されました。



連覇を狙った日本でしたが、カナダに惜敗。しかしながら、最後までボールに食らいつくプレーヤーの姿に惜しめない拍手が送られました。地元開催でプレッシャーのかかる大会だったでしょうが、その最後まで諦めない姿は観客の心に一生残るでしょう。

今回の大会では、初の本格的なライブ動画配信が行われ、日本だけでなく海外の愛好者たちが多くアクセスし、大会を楽しんでいました。また、特大スクリーンを用いて得点及び反則名の表示を行い、キンボールスポーツを初めて見る方にもゲーム進行が分かりやすく好評でした。



1週間に及ぶ国際大会は日本連盟にとって初めてのことでした。2年余りにわたって準備をしたものの、不手際もありましたが、各連盟からは賞賛の言葉をいただき、次回開催国のフランス連盟はかなりのプレッシャーを感じているとのこと。成功裏に終わったのは選手、観客の皆さんの協力があり、スタッフやボランティアの方が黒子に徹して大会を盛り上げることができたからだと感謝しております。いつの日か、再び日本開催のワールドカップがあるかと思いますが、今大会の教訓を次世代に繋いでいく所存です。

第3回キンボールスポーツ ワールドクラブチャンピオンシップ2017東京大会

11月3日(金)と11月5日(日)にはワールドクラブチャンピオンシップ2017東京大会が開催されました。アマチュア部門10チームとプロ部門16チームが参加。海外からはドイツ、フランス、ベルギー、カナダ、香港からの参加がありました。入賞チームのほとんどを日本チームが占めました。海外チームは試合を心底楽しんでいました。

■ 結果

プロの部

優勝 USP(滋賀県)
2位 Aurora(東京都)
3位 Jackin & Michelle(フランス)

アマチュアの部

優勝 IBU B(千葉県)
2位 Tokyo Omny Land(東京都)
3位 team 1970(奈良県、北海道、大阪府)

